

令和5年度
市民協働モデル事業取組レポート

事業名

イソマチマルシェ

団体名

磯GO!みらいの会

代表者肩書・氏名

会長:鈴木節也
副会長:鈴木陽・梁島由梨

●事業の目的、目指す将来像など

地域の人口減少に伴ない人間関係の希薄化が心配される地域。住民が一体化を図り、結束して地域を盛り上げる必要がある。そこで、事の重大さを感じた若者が立ち上がり「磯go!みらいの会」を結成。イベントを行い磯町の良さをPRする。更に地域を特色のあるまちにしよう、そのために空き部屋を活用し、そこに芸術家に来てもらい「芸術のまち磯」を創り出し、人口減少をくい止めようと考えている。最終的には、農村地帯ではあるが、一人ひとりが合間をみて、陶器・彫刻・絵等を作成することが趣味としてもてるような地域人を作る。

●今年度の事業の取組実績

「磯go!みらいの会」では、1月から12月までを1年と考え事業を実施している。その1としてのイベント事業であるが、地域の特産物である「イチゴ」を磯町としてブランド化していく。そのためにイチゴ農家の人と話し合いのもと1~3月まで販売している。その他、高齢者が庭先で作った農作物の新鮮さを前面に出し、また、米も品種そのもの100%で販売、うまさを引き出していく。その他、多世代間が交流でき、人間関係を密にする目的でキッチンカーにも会員になってもらい、毎回10台以上の出店を見ている。6月は、磯山神社とのコラボで双方の利を考え実施、10月は休耕田を利用し、コスモス畑をつくり、誘客を図っている。空き家も2軒、芸術家が利用することで話が進んでいる。地域が発展するには、人的なことばかりでなく、物的な面の環境整備も同時に進行していくよう心がけている。

●今後に向けての展望、意気込み

イソマチマルシェは、他地域から参加者が増しているが、スタッフとしても一緒にと手伝ってくれる人も増している。他地域の若者との交流の増加と地域内の地縁団体との交流も図り、地域の一体化を考えている。特に、自治会の行事には連携して互いに理解度を深め運営することは継続性が期待できる。イチゴの磯町ブランド化もイチゴ農家との話し合いが行われているので、令和7年度にはパッケージまで作成できるようにしたい。高齢者の生きがいとなる農産物の栽培を手助けできるよう販売力にも工夫をこらしていき、老若男女が1つのことに支え合い、助け合える福祉の心を育てるきっかけとなればと思っている。このことは、地域の防災力にも係わることでもある。また、地域全体が芸術のまちといわれるような一人ひとりが趣味を生かせる環境づくりにも努力していきたい。磯町が長く存続することに期待して。



マルシェの様子



マルシェの様子